

K.S.J.

KAGAWA SHINREN JIHO
KAGAWAKEN SHINRIN KUMIAI RENGOKAI

香川県森連時報

37

令和4年8月発行(年2回/1月・7月)



森は地球の財産です。

JForest

報告 第72回通常総会開催



令和4年5月31日午前10時より、本会2階会議室において、第72回通常総会が開催された。今回は2年ぶりに来賓をお招きし、通常の式典となった。

五所野尾会長が挨拶の中で、新型コロナウイルスの感染拡大状況や、原油・原材料費等の高騰長期化によっては国内経済への影響が懸念されていることや、木材需給において外材の不安定な供給動向から国産材への需要拡大に応えられる素材の安定供給体制の整備が課題であると述べた。また、木材利用促進に関する法律が改正され、その対象が公共建築物等から民間建築物へと拡大されたことや、脱炭素社会の実現に貢献するためにも、森林の適正な整備と森林資源利用の促進に取り組むことは森林組合系統にとって大きな責務であると述べた。

令和3年度の各事業については、積極的に各部門の事業量確保に努めるとともに経費の節減に努めた結果、当初計画を上回る成果を上げることができたことを報告し、今後とも会員各位のご協力と関係機関のご支援をお願いした。

続いて表彰が行われ、下欄の方々に表彰状と記念品が贈呈された。



議事については、議長に土庄町森林組合の三宅組合長が選出され、全ての提出議案が原案どおり承認された。

感謝状	木村 薫	香川県森林組合連合会
職員の部	椎木 拓	土庄町森林組合
作業員の部	阿倍 正嗣	香川県森林組合連合会
//	土居 高志	//
//	赤松 純子	//

報告 森林組合役員・職員研修会開催

令和4年2月17日（木）、本会2階会議室において、令和3年度森林組合役員・職員研修会を開催した。県下森林組合の役職員を対象に、全国森林組合連合会参事の佐々木太郎氏からオンラインで「森林組合法の一部を改正する法律等の概要について」、農林中央金庫高松支店 四国営業部次長の木村尚徳氏から「コンプライアンス研修」、全国森林組合連合会組織部林政・指導課担当課長の早瀬悟史氏からオンラインで「森林組合系統運動「JForestビジョン2030」について（新系統運動方針作成研修会）」の説明があり、また「人権問題研修」がおこなわれ、出席者15名が熱心に研修を受けた。



報告 JF香川県漁協青壮年部連絡協議会主催の植栽・下草刈り作業への参加

令和4年3月19日（土）と6月25日（土）に、高松市公湊森林公園内において、香川県漁協青壮年部連絡協議会主催による竹林整備を目的とした植栽作業及び下草刈り作業が実施され、本会から、作業指導・補助のため計4名の職員が参加した。

これは近年における瀬戸内海の低栄養塩化による漁場環境の変化により、漁業生産の継続が危惧されていることから、香川県漁協青壮年部連絡協議会が森林と海の相互関係を重視し、侵入竹等により荒廃した森林の機能を回復させるため広葉樹を植栽し、豊富な栄養が河川を通じて海に流れ込むよう平成25年から取り組んでいるもので、今年は0.1haの竹林伐採跡地にクヌギコンテナ苗木300本を約30名で植栽し、植栽木の保育のため下草刈り作業を約30名で実施した。



報告 高松空港・讃岐おもちゃ美術館へ 香川県産木材製品を寄贈

令和4年3月16日（水）、本会与農林中央金庫高松支店は、香川県産木材の利用の普及啓発を目的に、県産ヒノキ材を使ったベンチ3基を高松空港へ寄贈した。同空港への寄贈は3回目で、これまで合わせると8基となった。空港ターミナルのコンコース等に設置することで、空港を利用する多くの方々に木の持つ温もりや香りなどの良さを感じてもらいたい。

また、令和4年4月25日（月）、高松市大工町に木製玩具に触れて遊べる「讃岐おもちゃ美術館」が開館した。東京四谷にある「東京おもちゃ美術館」の姉妹館で、全国で9館目の開館となる。オープンを記念して同機関から、香川県産枝付きヒノキをシンボルツリーとして、またその周りに子供たちがおもちゃで遊ぶことができる円形テーブルを寄贈した。



報告 新規採用職員紹介

令和4年4月1日から当会の業務課に配属になりました、平井（ひらい） 貴大（たかひろ）と申します。

3月まで兵庫県神戸市で青果商材の販売をしていましたが、自然に囲まれた環境の中で家族との時間を過ごしたいと思い、香川県への移住を決めました。

転職活動を進める中で、森林の手入れや管理を通じて県民の安心・安全な暮らしを守るといふ本会の活動に魅力を感じ応募しました。林業・木材生産など専門的な知識も事務経験も未熟ですが、何事にも前向きに挑戦していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



特集

さぬき空港公園便り

さぬき空港公園は、高松空港に隣接する67.8haの広さを持つ都市公園です。

公園は、桜が多く植栽されている「カントリーゾーン」、噴水や天然芝のグラウンドがある「ポートヒルゾーン」、広大な芝生広場が広がる「アドベンチャーゾーン」、離着陸する飛行機を真下から見るができる「スカイゾーン」、県下で唯一グラススキーが楽しめる「グラススキー場」の5つのゾーンに分かれています。

カントリーゾーンにある催物広場はお花見の名所として徐々に人気となっており、毎年多くのお花見客で賑わうようになりました。

ポートヒルゾーンにあるイベント広場は、どなたでも無料で利用することができ、大変好評な広場となっており、600人規模のグラウンドゴルフの大会や、幼稚園などの運動会、サッカークラブやラグビースクールの練習場としてよく利用されています。

グラススキー場は全長200メートルの天然芝のゲレンデがあり、上級者になるとかなりのスピードを出せるようになります。当公園のスタッフはグラススキーのインストラクターの資格を持っており、初心者でも安心してチャレンジすることができます。

本会は、平成24年度からの2期10年間、当公園の指定管理業務を行ってまいりました。2期目の実績として令和元年度の来園者数は11万9319人と、1期目で最も多かった平成27年度の11万3435人を上回ることができました。



ポッカール

また、ほぼ毎年開催しております「真夏の雪遊び」や新型そり「ポッカール」の導入、噴水のイベント、オリエンテーリングや福祉施設にご協力いただいて花壇への花の植付け等にも取り組みました。

これらの実績や新規の利用促進の提案が評価され、令和4年度からの5年間も3期目の指定管理者に本会が選定されまし

た。今後も多くの県民の皆様にはさぬき空港公園を知っていただき、多くの来園者に楽しんでもらえるようスタッフ一同鋭意努力してまいります。

さて、3期目の利用促進に係る提案として、当公園のマスコットキャラクター「さぬたんぬり絵コンテスト」や、「ファミリー向けグラススキー教室」、「グラススキー指導者向け講習会」のイベントを計画しているほか、高松空港周辺の施設と連携したスタンプラリーも開催する予定にしております。

さらに、これまで開催していた「真夏の雪遊び」や「グラススキー感謝祭」、「健康ミニマラソン」、「一輪車教室」も引き続き開催する予定です。

今後も魅力的なイベントを開催し県民サービスの向上につながるよう、スタッフ一同鋭意努力してまいります。



健康ミニマラソン



令和4年度桜

